

# 豊庄だより



第 686 号 2021 年 11 月 15 日

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達

女子少年院の様子をとらえたドキュメンタリー映画『記憶』を観ました（10月23日 なみきスクエアホール 主催：福岡市保護司会連絡協議会）。女子少年院の中にカメラが入り、（少年院を管轄している法務省の許可を得て）撮影。これまで女子少年院の中をこれほどまでに撮影をしたものはなく、少年院の矯正教育や生活実態（といってもその一部ですが）を知ることができました。この映画の監督の中村すえこさんは、4人の少女から話を聞き、それぞれのかつての「記憶」をひも解いていきます。映画では、話してくれた記憶をもとに再現ドラマが作られ、聞き取りの場面と再現ドラマが交互に登場する構成になっていました。4人の歩んで来た道は様々ですが、非行そして犯罪を犯した経緯は本人の責任だけではない、彼女たちを取り巻く環境に起因しているのを痛感しました。彼女たちは、事件を起こし女子少年院に入るといふ加害者であるのですが、虐待、放任、貧困等の中で育つという被害者でもあったことを映画は伝えていました。

映画の上映後同じ会場で、大阪で保護司をしている狩野修さんがコーディネーターとなり、監督の中村すえこさんと福岡県警青少年育成指導官の堀井智帆さんによるパネルディスカッションが行われました。



監督の中村さんは、少女時代に暴走族のリーダーでした。傷害事件を起こし少年院へ送致。出所後、暴走族に戻ったのですが、かつての仲間からは受け入れられず、その後今度は覚せい剤に手を出し、再び逮捕され少年院へ。そうした経験を持つ中村さんが更生し、「セカンドチャンス」という少年院出院者同士が経験や将来の希望を分かち合って、仲間として共に成長していくことを目的とした団体を立ち上げ、今日に至っていること、スクリーンに少年院を出た後、決して順風満帆の歩みをしていない少女たちを登場させたが、出てきてからの支援の重要性を伝えたかったと聴衆（ほとんどが保護司とその関係者）に伝えてくれました。また、堀江さんは、映画に登場する出所者を受け入れている支援施設が、必ずしもうまくいっていないが、それも実際の姿であること、そうした中でもやはり支援の体制を整えていかなければならないと話されました。

最後に、中村さんが、映画に登場している佳奈さん（仮名）のその後のことを、最近出版された本（『女子少年院の少女たち』さくら舎）の中に書いていますので、ぜひ読んでくださいと言われ、会場の入り口で購入し、現在読んでいます。

福岡市保護司会連絡協議会設立28年記念事業

## 講演会 及びドキュメンタリー教育映画「記憶」上映会

～少年院の少女たちの未来への軌跡～

日時 2021年 10月 23日 (土)

第1部 上映会 開演 13時30分  
開演 14時00分

第2部 講演会  
開演 16時00分  
終了 16時40分

講師・パネリスト  
中村 すえこ (監督・監督) (福岡県青少年育成指導官)  
堀井 智帆 (福岡県青少年育成指導官)

コーディネーター  
狩野 修 (秋田地区保護司(大阪府))

映画では見られない舞台裏や、少女たちの素顔、支援者たちの思いを語り合います。

会場 なみきスクエアホール  
JR鹿児島本線  
千早駅 徒歩1分  
西鉄四原線  
千早駅 徒歩1分

入場無料  
事前申込み費 (約400名)  
※申込みは裏面参照

少年院在院中の少女たちの赤裸々な過去、現在そして未来……。  
—幸せになってもいいのですか?—

2018年2月、女子少年院の改訂からカメラが取り入れられる。その後、大塚の撮影プロジェクトに引き込まれることになる中村すえこさん。女子少年院では本や雑誌の撮影が4人の少女に委ねられた。そしてそれ以外の全ての記憶を記録し、再現ドラマとして完成させる。また、少女たちを支援する支援施設、施設プロジェクトの告知書、保護者などのインタビュー、彼女たちが抱えている悩みや将来について話を交わす。女子少年院の教育現場や生活実態をリアルに伝えた1年間に及ぶ少女たちと女子少年院のドキュメンタリー。

監督 中村すえこ 撮影 大塚幸伸

主催・問合せ 福岡市保護司会連絡協議会 s-vrum35unfow3o@ap.wakwak.com

中村すえこ  
Nakamura Sueko

## 女子少年院の少女たち

「助けてほしい」  
が届かない!

生きるために犯罪を選ぶしかなかった——。  
自分を守る術を知らない少女たちのリアルな言葉が刺さる!

人は何度でもやり直せる!

さくら舎

女子少年院の少女たち  
中村すえこ  
Nakamura Sueko